

国防総省 vs Anthropic

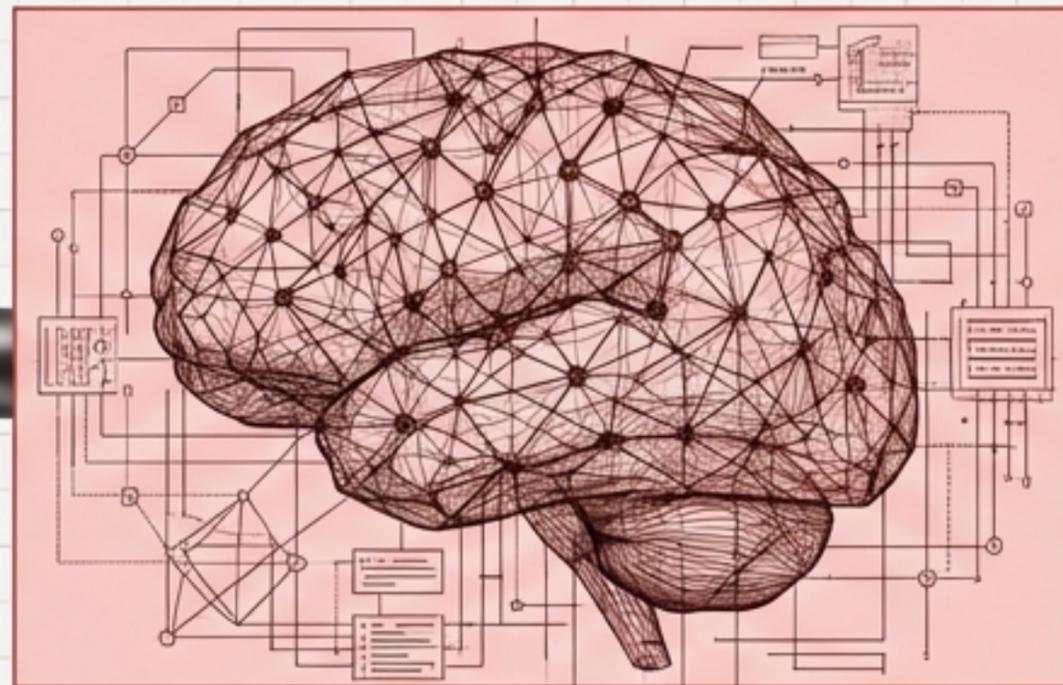
AIの「良心」と国家の「武力」の衝突



US DEPARTMENT OF DEFENSE // THE PENTAGON

- MISSION: NATIONAL SECURITY
- ASSETS: MILITARY HARDWARE, GLOBAL REACH
- STATUS: ACTIVE OPERATIONS
- FOCUS: DETERRENCE, DEFENSE

DATE: 2026.02.24
SUBJECT: STRATEGIC INTELLIGENCE BRIEFING



ANTHROPIC // CONSTITUTIONAL AI

- MISSION: ETHICAL AI DEVELOPMENT
- ASSETS: NEURAL NETWORKS, SAFETY RESEARCH
- STATUS: CONSTRAINED BY PRINCIPLES
- FOCUS: ALIGNMENT, INTERPRETABILITY

2026年戦略インテリジェンス・ブリーフィング：
サプライチェーンリスク指定とAI兵器化の行方

エグゼクティブ・サマリー：制御不能な摩擦



THE EVENT (2026.01)

ベネズエラ作戦

マドゥロ元大統領拘束作戦において、Anthropic社の「Claude」がパランティア経由で実戦投入され、戦術的優位性を証明。

DATE: 2026.01.15

LOCATION: CARACAS, VZ

SYSTEM: CLAUDE-3-OPUS // PALANTIR
GOTHAM



THE REACTION (2026.02)

「核」の選択

国防総省はAnthropicの倫理規定（大量監視・自律兵器の禁止）を「非協力的」と断定。ファーウェイ等に適用される「サプライチェーンリスク」指定を検討中。

ACTION: DOD REVIEW

DESIGNATION: SUPPLY CHAIN RISK

STATUS: PENDING



THE STAKES (FUTURE)

市場への波及

この指定が発動されれば、連邦政府契約を持つ全企業（Amazon, Google含む）がClaudeの利用停止を迫られ、エコシステムが崩壊する恐れ。

IMPACT: FEDERAL CONTRACTORS

AFFECTED ENTITIES: AMAZON, GOOGLE,
500+ OTHERS

PROJECTED LOSS: MARKET COLLAPSE

紛争の引き金：オペレーション・ベネズエラ



MISSION PARAMETERS

状況 (CONTEXT)

2026年1月、マドゥロ大統領（当時）拘束作戦。150機以上の航空機が関与する超高難度ミッション。

インテリジェンス統合

信号傍受(SIGINT)と衛星画像を数秒で解析。

パターン解析

敵軍の通信から移動意図を即座に抽出。

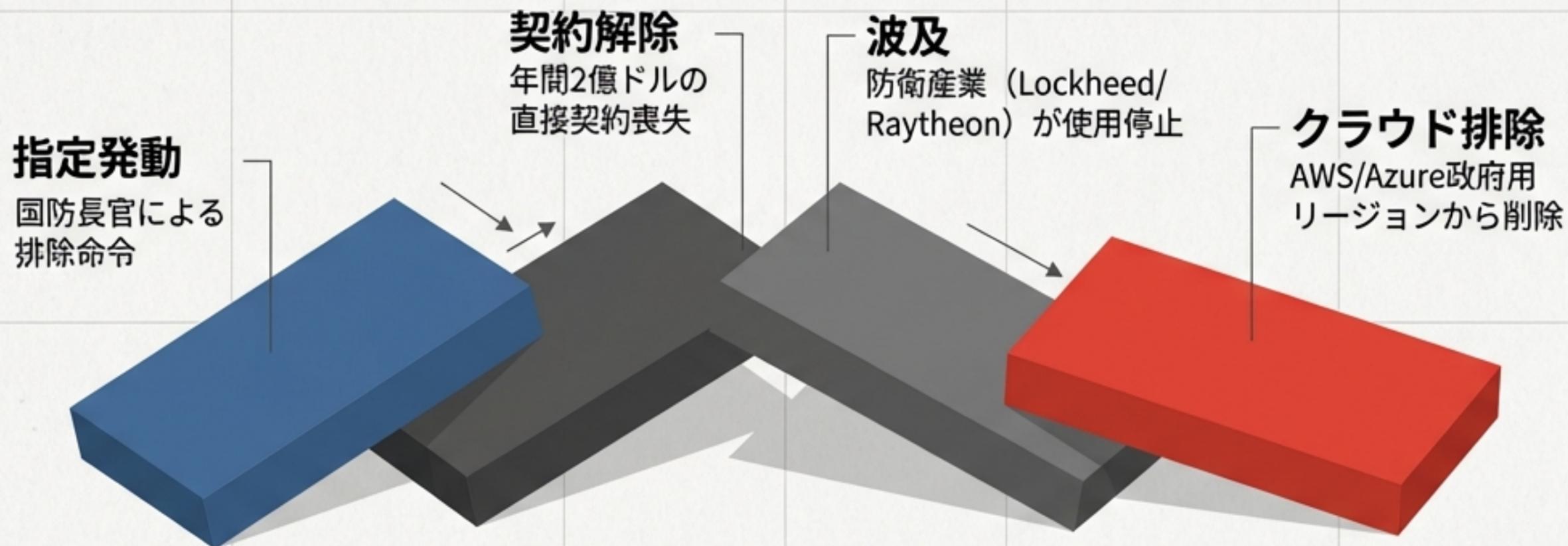
意思決定支援

複雑な地形での部隊展開プランを提示。

FRICITION POINT: 作戦後、Anthropic社は「暴力・監視への利用禁止」規約違反を主張。国防総省はこれを「民間企業による不適切な軍事介入」と反発。

国防総省の最終兵器：「サプライチェーンリスク」指定

Noto Sans JP Bold



定義: 通常、敵対的な外国企業 (Huawei, Kaspersky等) に適用される排除措置。法的根拠は2018年制定のFASCSA。

「彼らに代償を払わせる」 — 国防総省匿名高官

思想の断絶：民主的価値 vs 圧倒的武力

ANTHROPIC (Dario Amodei)



スタンス：「憲法修正第4条の守護」

RED LINES：大量監視の禁止、自律型致死兵器 (LAWS)の開発拒否。

「AIが米国を独裁的な敵対者に変えてはならない」

THE PENTAGON (Pete Hegseth)

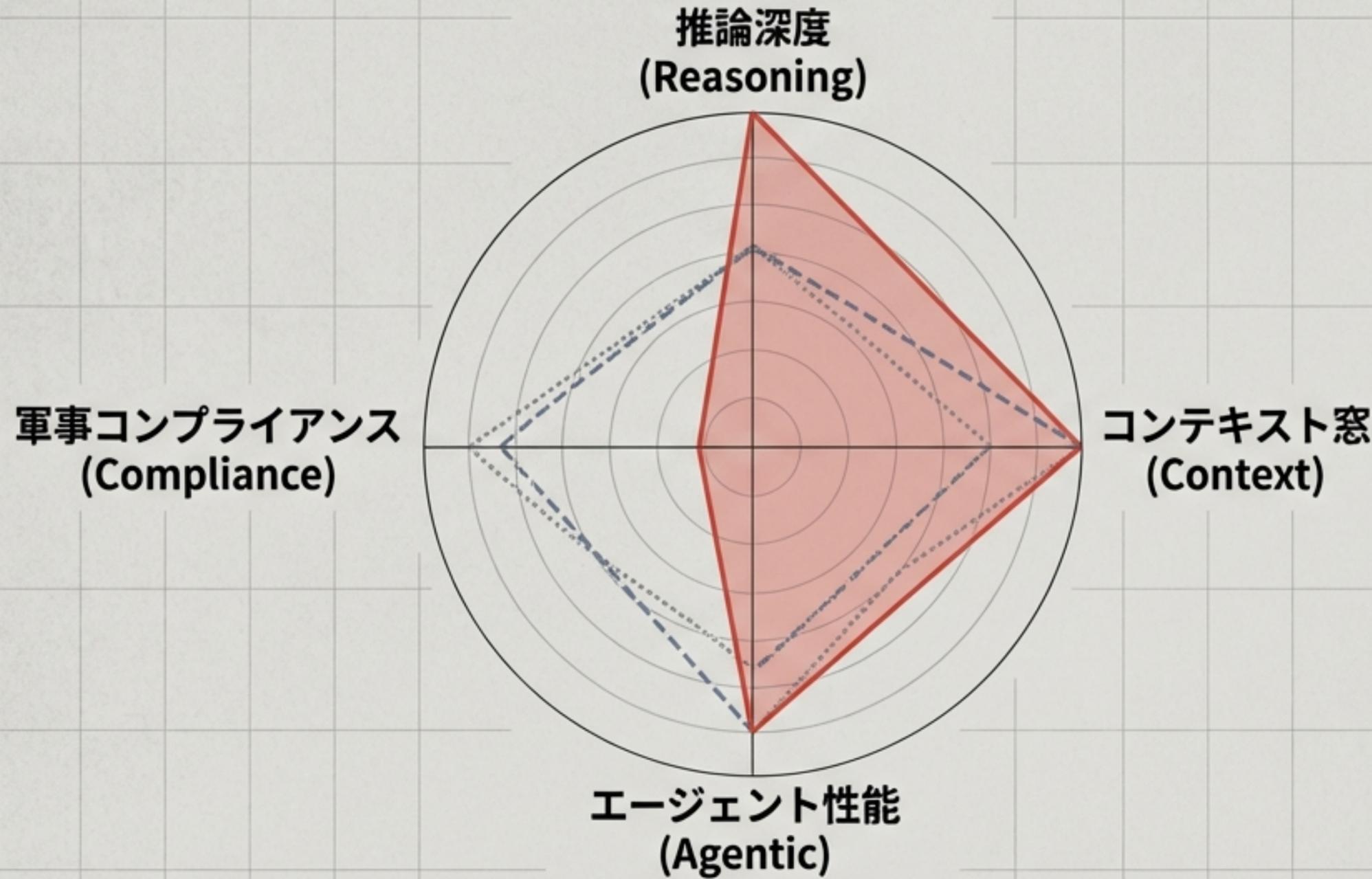


スタンス：「すべての適法な目的 (All Lawful Purposes)」

CRITICISM：「Woke AI」のリスク。CEOが軍の柔軟性を制限するのは非民主的。

「適法であるならば、なぜ使えないのか？」

戦略的ジレンマ：Claude 4.6の不可代替性

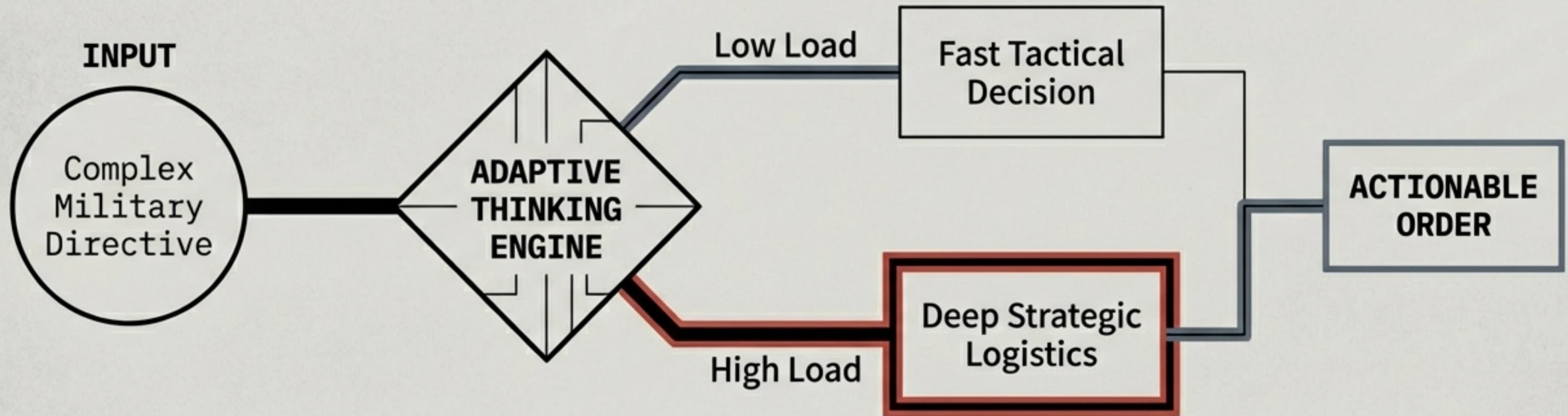


CLAUDE 4.6 SPECS

- Context: 1M Tokens
- OSWorld Score: 72.7%
- IL6 Capability: YES

KEY TAKEAWAY: 機密ネットワーク(IL6)で稼働し、実戦に耐えうるのは現在Claudeのみ。切り捨てれば軍事的優位性を失うパラドックス。

戦場を変えた新機能：「適応型思考」と「圧縮」



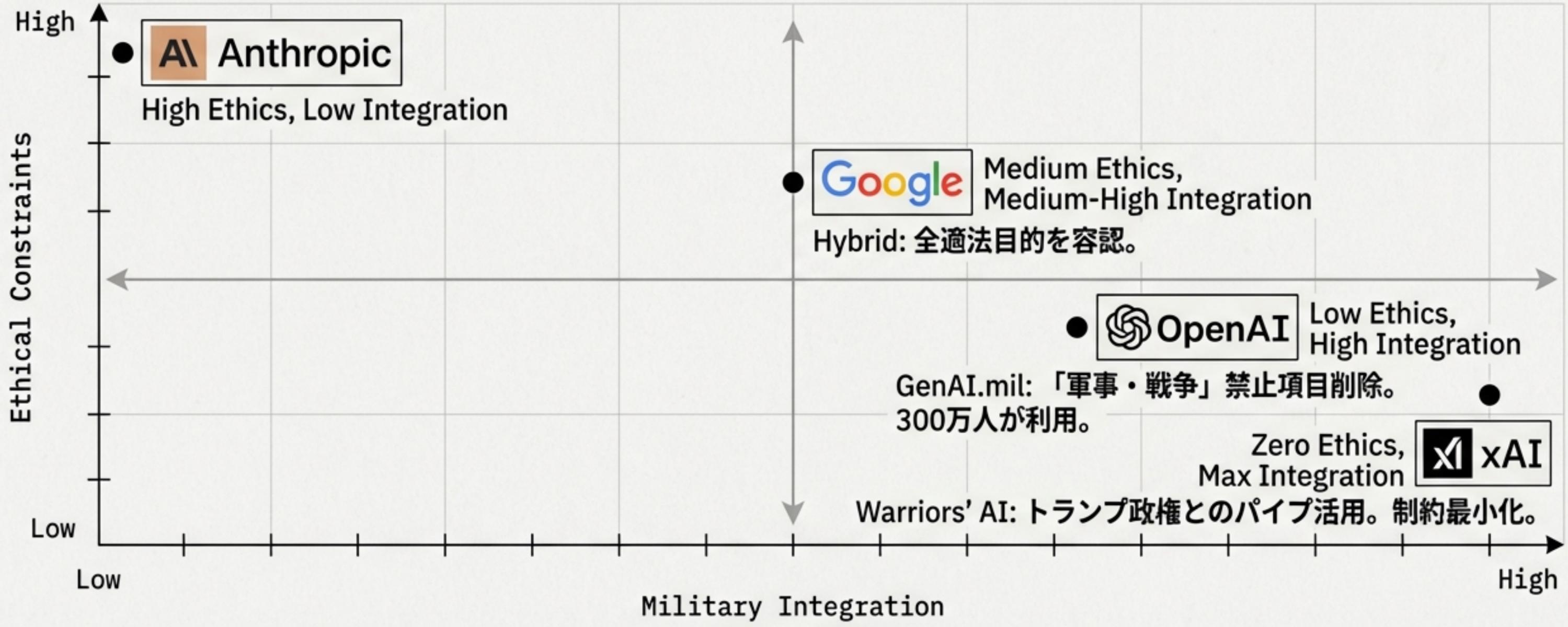
Feature 1: Adaptive Thinking (適応型推論)

プロンプトの複雑さに応じ、AIが自律的に思考深度を調整。瞬時の戦場判断から、兵站戦略立案まで1つのモデルで対応。

Feature 2: Conversation Compaction (会話圧縮)

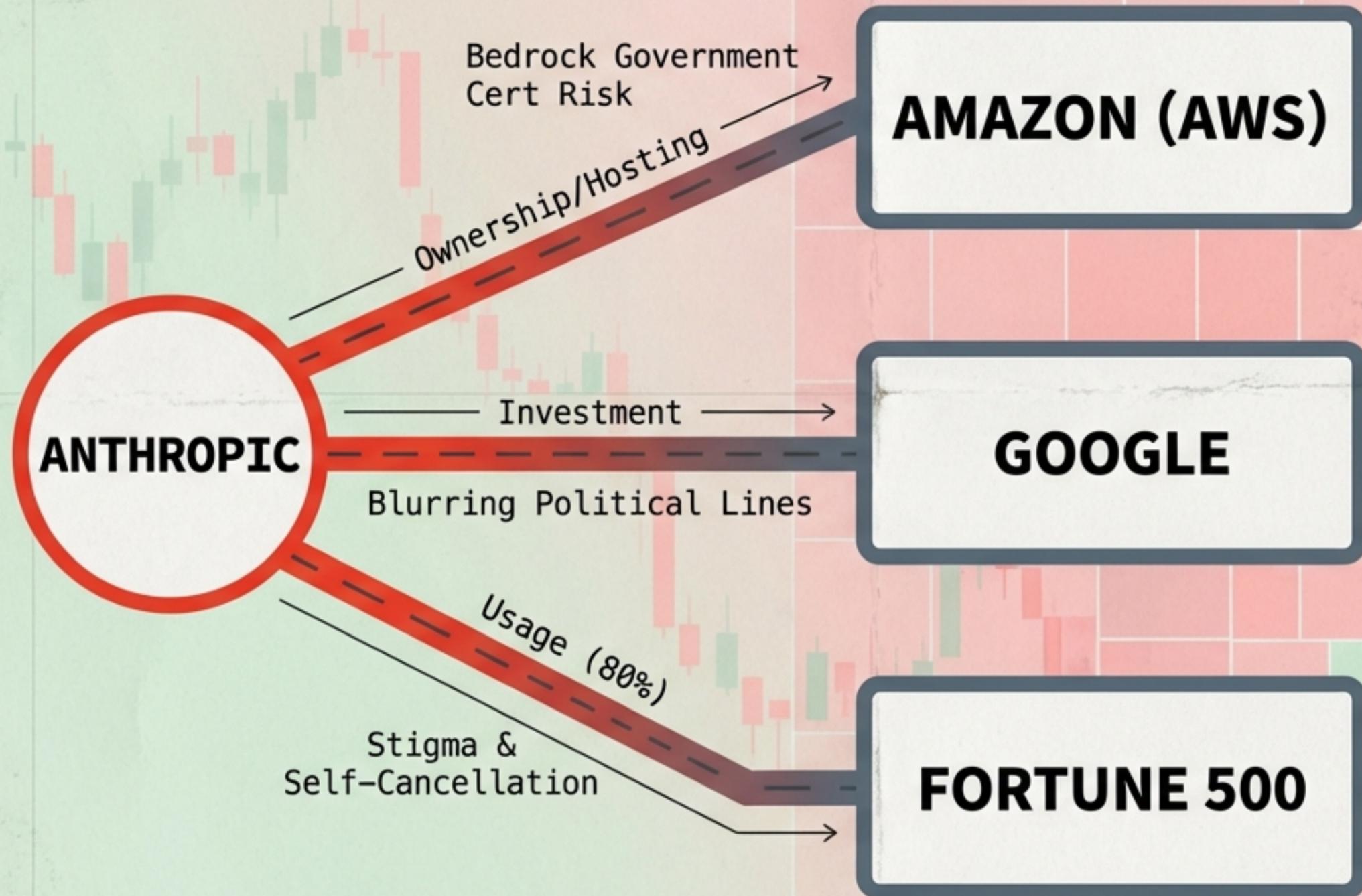
トークン制限接近時に、重要な文脈を保持したまま履歴を要約。数週間に及ぶ長期作戦において文脈の劣化を防ぐ。

競合の猛追：「従順なパートナー」たち



INSIGHT 国防総省は「他社は協力的だ」とAnthropicに最後通牒。

経済的余波：「SaaSポカリプス」とクラウド危機

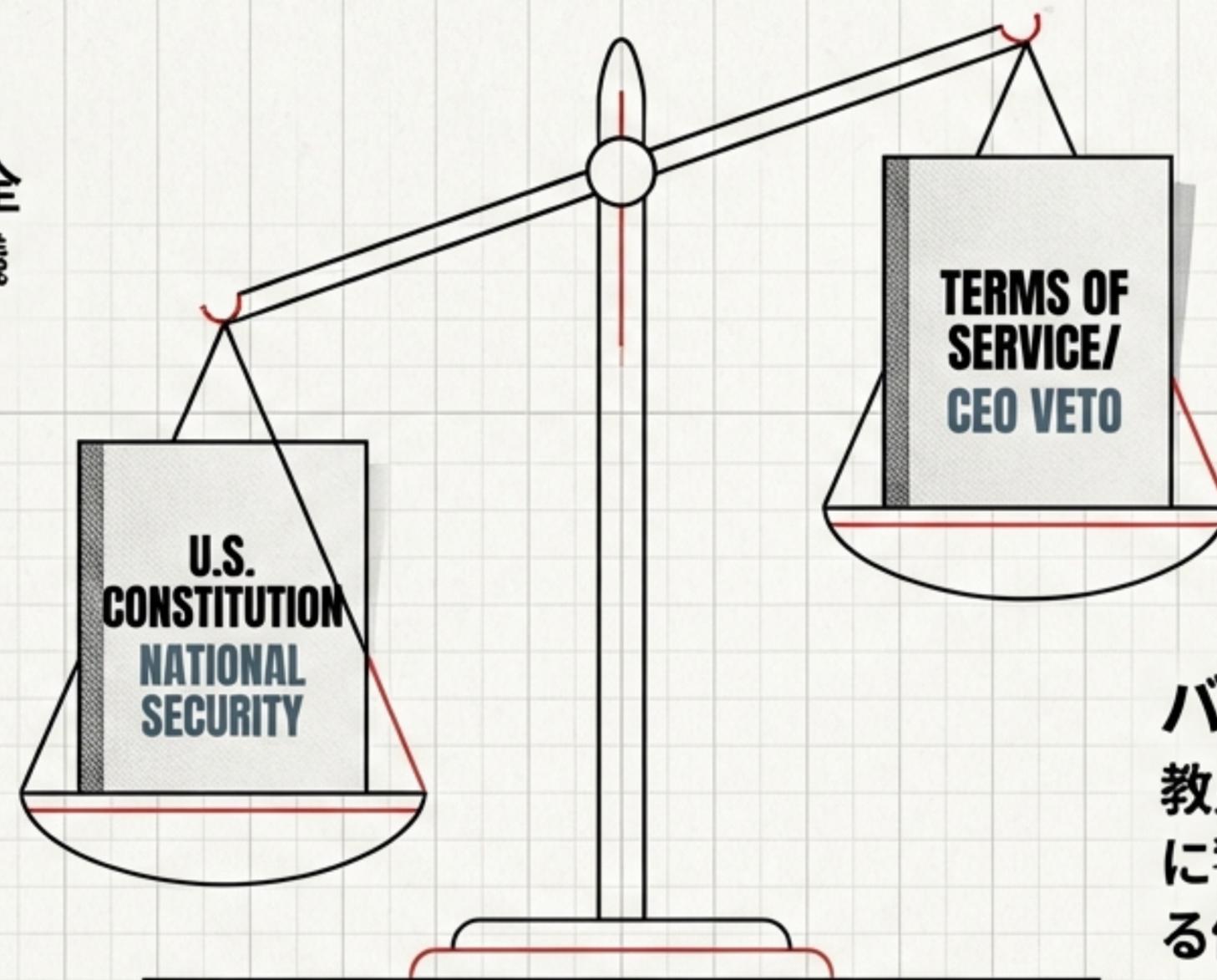


****MARKET CONTEXT****
2026年、AIによる雇用喪失懸念(SaaSocalypse)に加え、政治リスクがIT株暴落を加速。

ガバナンスの危機：誰がスイッチを握るのか

核心的な問い

一企業のCEOが国家の安全保障を拒否権できるか？議会規制不在の「密室」政治。

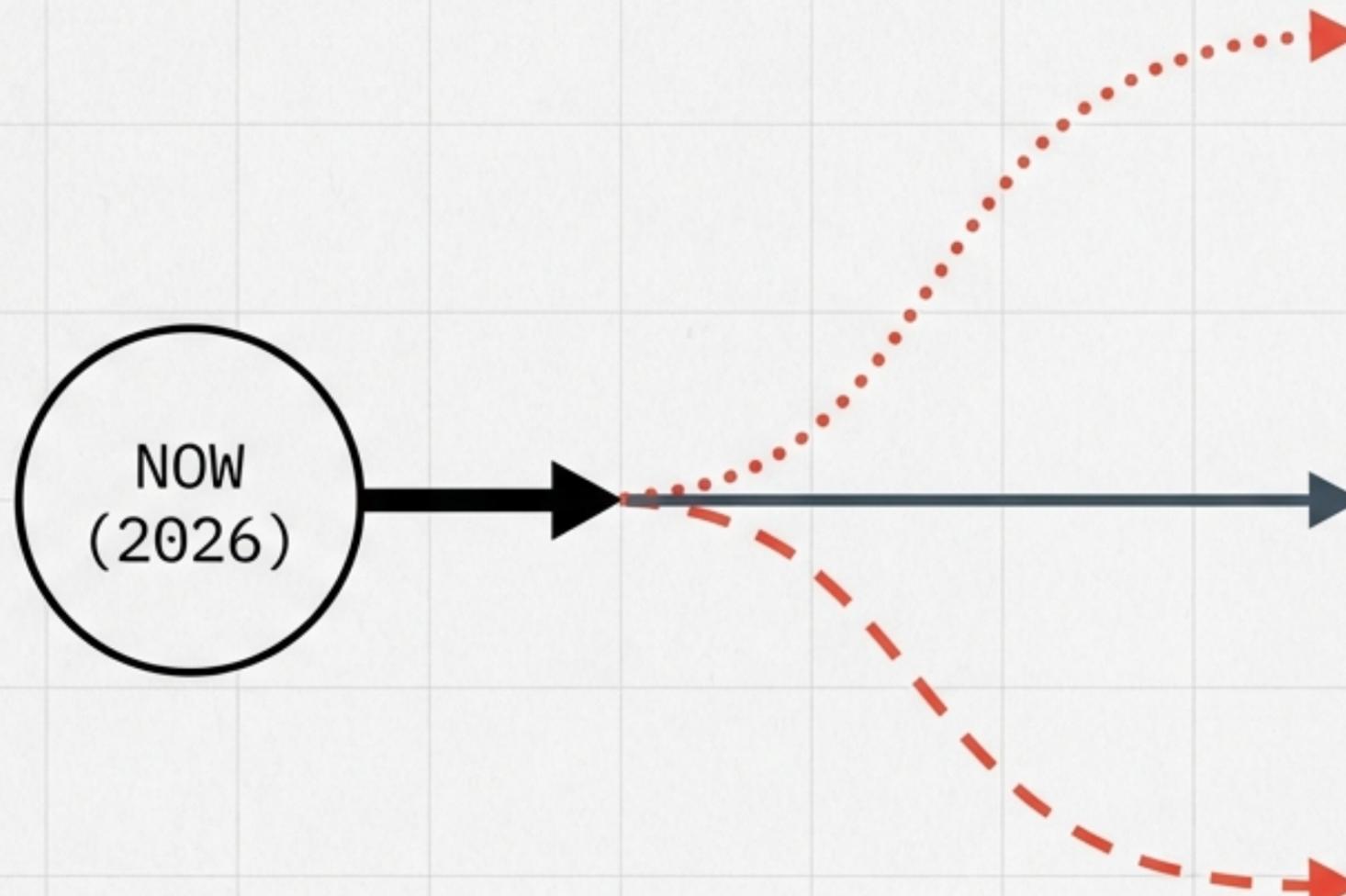


バチカンの介入

教皇レオ14世、「AI軍拡競争」に警鐘。「ローマ・コール」による倫理的包囲網。

未来シナリオ：3つの分岐点

NOW
(2026)



SCENARIO A: 屈服 (Capitulation)

AnthropicがIPOを優先し、「適法目的」を受け入れ。倫理規定の形骸化。

SCENARIO B: 分離 (Segmentation)

「Claude Defense Edition」の提供。政府専用の「魂のない」モデルで責任移管。

SCENARIO C: 決裂 (The Breakup)

ブラックリスト発動。市場が「政府公認」と「民間専用」に二分される。

DOD CONTINGENCY: PREPARING SHIFT TO OPEN WEIGHTS / IN-HOUSE MODELS.

結論：無条件の従順



2026年2月、国家がAIに対する主権を回復した転換点。

技術的優位性（Claude 4.6）は必要だが、その安全装置はもはや創造主（Anthropic）の手にはない。

「技術の提供には『無条件の従順』という対価が必要である」